

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100087
法人名	医療法人 陽心会
事業所名	グループホーム大道が丘
所在地	沖縄県那覇市大道94番地3 3F
自己評価作成日	平成21年9月24日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100087&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成21年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活が送れるように、利用者一人ひとりが心身の力をできるだけ発揮しながら安全でより豊かな暮らしを楽しめるよう、多様な地域資源と協働し生活できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通の便の良い住宅街に位置し、同じ建物の1階には地域交流室、2階には小規模多機能型居宅介護事業所がある。地域交流室では法人母体や社会福祉協議会の協力を得て民生委員を中心に地域との交流が図られ、開所2年を経過して地域行事への参加も少しずつ取り組み始められている。小規模多機能型居宅介護事業所の職員とは、行事等での協力が得られており、緊急時の協力も得られる関係にある。母体法人の病院が協力医療機関となっており、医療連携も確立されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解した上でケアの提供が行えている。また、その理念が職員や利用者、家族が見やすい場所に掲げています。	職員は理念を念頭に入れ、ケアの実践を心がけている。創設時につくられた理念で、見直しは行われていない。共有スペースに理念を掲示しているが、目立たない状況である。	地域密着型サービスの特性を踏まえ、地域との関係性を重視した理念の見直しと、掲示方法の工夫が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長や地域の民生委員との交流が図れ、社会福祉協議会主催による地域住民や民生委員などが、毎週土曜日に地域交流センターにて交流することができている。今後は地域の行事への参加を目標としている。	法人母体が自治会と連携しており、民生委員をパイプ役として週1回、地域交流室が活用されている。地域の敬老会へ利用者と職員が参加した。	自治会行事や地域活動を通して地域の人々との交流を深めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流センターを利用している地域住民や民生委員などとはできているが、利用していない地域の方との付き合いはなく、今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的には2ヶ月に1回運営推進会議を開催し報告や話し合いができている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議が開催されている。内容は、事業所からの報告が主である。議事録に参加者の意見等がない。	参加者から出された意見等も記録していただきたい。外部評価結果を運営推進会議に図りサービス向上に活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やサービスを行う上で必要時には電話連絡し確認している。	市職員から運営推進会議参加時に、防災訓練やインフルエンザ予防の取り組み方法等についてアドバイスを受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が確認できる場所に身体拘束マニュアルを設置し、月1回の会議にて再認識できるように努力している。	日中、玄関は施錠せずに、利用者が出ようとすると、職員は見守りながら付き添うようにしている。夜間は見回りを密にしているが、安全のため家族の同意を得てベッドに柵をする利用者もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回職員会議を実施し高齢者虐待防止法に関する理解や遵守に向けた取り組みが行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関してのマニュアルを設置し、職員や利用者、家族が自由に閲覧できる場所に設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を作って丁寧に説明を行い、利用者や家族に理解していただいたうえで契約の締結、解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、責任者へ報告できるようになっていたり、3ヶ月に1度担当者会議を開催し、利用者や家族の意見を反映できるようにしている。	意見箱に意見が入ることはなく、家族が来訪したときに直接意見を伺っている。家族からは利用者の状況報告に関しての要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し、要望などを確認するようにして、日頃から個別な意見にも耳を傾けるよう努力している。	職員から入浴について提案があり、職員と一緒に入浴スケジュールを作成して実践したところ、利用者全員の清潔保持が図れるようになった。勤務表も職員と一緒に作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常の職員の勤務態度や実績を評価し、上司に報告する。また、実践者研修等、本人がステップアップできる研修を用意する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所で行われている勉強会や研修へ順番に参加したり、リーダーである管理者が月に一度勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時において、他事業所との交流ができている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で、本人との面談を必ず設け本人の思いを聞き入れるように努力し、常に本人に寄り添った対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で、家族の苦労や今までの生活情報などを聞いて、事業所においてどのような対応ができるかを事前に話し合うことができる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら問題点の解決に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協力しながら和やかな生活ができるように、食事作りなどにおいてもアドバイスを頂いたり、人生の先輩であるといった意識を持って声かけしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の関係が徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	クリスチャンである利用者に対しては、日曜日に家族と教会へ出かけることができたり、また家族の中には毎日事業所へ来て本人と過ごすことができているが、ほとんど交流がない利用者もいる。	通院介助時等に、行きたいところがあるか尋ねている。利用者の家族に来訪を促す電話をしたり、市場に買い物に行きたいという利用者に職員が付き添い、関係が続くように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また、心身の状態や気分、感情で日々変動があるため常に観察しながら支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今回対象となる利用者はいないが、終了後も相談や支援に努めることを考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ把握するように努めている。言葉や表情、行動から本人が今何を望んでいるかを見極めるように努めている。又そこで得られた情報は、関係職員や家族に共通理解している。	アセスメントシートに希望が記録されている。利用者本人がきちんと意向を訴えることができる方が多いが、家族や来訪される関係者からも情報収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの情報や、家族などから訪問時に確認するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	介護計画作成時には、利用者の希望と家族の意向を反映させることを大切にしている。3か月ごとに計画が見直しをしているが、必要に応じて、見直し時期以前に変更されることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域との関わりができるように、地域住民や民生委員へ働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行ったり、2週に1回は訪問診療を実施している。	内科は協力病院を受診しているが、認知症外来や皮膚科、眼科は入所前からのかかりつけ医を受診している。通院後は家族と職員で情報の共有を口頭で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護ステーションの看護師とは、気軽に相談できる関係にあり、看護師と提携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用対象者が出た場合は、主治医や関係医療機関、本人、家族に対して事業所でできる事を十分に説明しながら方針を共有し支援したいと考えています。	入所時に家族の意向を聞き、3か月ごとのケアプラン見直し時にも再確認している。終末期対応マニュアルはまだ作成されていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡体制などは、マニュアルを設置しており職員も把握しているが、訓練はできておらず今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	10月に防災訓練を予定しており、その訓練によって全職員が避難方法を身につけることができる。地域との協力は今後努力していきたい。	防災計画が作られ、訓練に地域住民の参加を呼びかける予定である。職員は消火器の設置場所や避難経路等を把握しているが、夜間災害時の避難誘導について地域との連携の必要性を感じている。	防災訓練実施後に様々な問題点等が出てくると思うので、それらに対して今後十分に検討していただきたい。また、備品や備蓄の整備にも期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議の際に、個人情報保護法をマニュアルを用いて全職員が理解し、日頃の声かけなどに注意するように努めている。	プライバシー保護に関するマニュアルは整備されている。ドアの無いカーテンのみのトイレがある。	マニュアルを共通理解するための研修会の開催に期待したい。ケア実施時の利用者のプライバシー保護に対する配慮を工夫していただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方にはジェスチャーなどを用いて、本人が希望することなどを汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過し方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援し、行事などへの参加時には化粧をしたり、お祝いに合わせた洋服選びが出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は基本的に職員が行っているが、調理の下ごしらえなどを利用者と一緒にしている。職員は利用者一人ひとりの嗜好を把握しており、食事が楽しめるように努めている。	食材や味付けにも十分配慮がなされている。配膳や片づけなど利用者が手伝う場面が見られない。職員が同席してからの食事の場面は、会話も弾んだ。	利用者個々の能力を引き出す場面作りの工夫と、利用者と職員と一緒に食事を楽しむことができる環境作りに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、利用者に応じた個別に介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。又、排泄チェック表に記録し本人の排泄パターンを職員が確認するように努めている。	夜間はおむつやポータブルトイレを使用している利用者もいるが、排泄チェック表を作成し排泄パターンの把握に努め、昼間は全員トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や乳製品を取り入れたり、すぐに下剤にて対応せずに、自然排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に利用者個々の曜日などが決まっているが、本人が別の曜日や時間的な希望があれば、利用者の希望の時間に入浴することが出来ている。	利用者の清潔保持のため、入浴に関する申し送りをきちんと行っている。シャワーの水が顔にかかる事に恐怖心を持つ利用者に対しては細やかな配慮をしたケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。又一人ひとりの睡眠パターンを把握し、個々に合った時間に誘導し、眠れない場合などは職員が添い寝するなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、常に処方箋を確認しながらケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうなことを頼み、終わったあとは感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その季節や行事にあった外出が時々出来ている程度である。食事の買い物にも1人ずつではあるが天気の良い日は一緒に行くこともある。	階下の小規模多機能型事業所と合同で、ハーリーや祭り等に参加している。重度の利用者には屋上で外気に触れたり、1階駐車場でレクを楽しんだりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につなげており、利用者全員ではないが、小額を手元に持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常に家族や兄弟などへ電話が出来るように、家族に理解していただき、自由に電話が出来るように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた飾りつけと、居室の冷暖房の調整、食事のにおいなどが伝わるなど、個々に応じた環境作りに努めている。	利用者が日中を過ごす食堂は、明るく居心地がよい。壁には行事のときの利用者の様子がわかる写真が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外は食堂にて過ごすため、特にソファなどは置いていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には、利用者の馴染みのものを居室に持ってきてもらい、出来るだけ本人が居心地いい環境ができるように工夫しています。	空調は、それぞれの好みに合わせて調整でき、家具はそれぞれが好きなように配置している。使い慣れた馴染みの物を置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリーになっていて、安全に自由に移動することが出来ていて、又、調理場はオール電化製品である。		